

日本発トスカーナ便り : Pario の街 Siena

Firenze 到着の翌日は、朝起きて「今日はSiena（シエナ）に行こう！」と思い立ちました。バスターミナルでチケットを買って、バスを待ちます。どうやら同じ時刻にSiena行きバスが2台ある様子。そのうちバスがやってきました。運転手はアフロヘアの「飛ばすぜー。曲がりたいときは曲がるぜ。」って感じのノリノリの兄ちゃんでした。うーん、大丈夫かなあ？（隣のバスは、定刻を待たず、すでに走り去った様子。ああイタリアです。）思わずシートベルトを締めつつ。まあ、心配することは何もなく、（プロですもんね。外見で判断しちゃーいけません。疑ってごめん。）のどかなトスカーナの田舎の風景を楽しみながら、直通の急行バスに乗ること約1.5時間で世界文化遺産の街、Sienaに到着。この街も7年ぶりです。



まずは、Piazza del Campo（カンポ広場）へ。正面にみえているのがPalazzo Pubblico（プブリコ宮殿）市庁舎です。すぐ横のTorre del Mangia（マンジャの塔）は高さ87メートル。塔には登れる（もちろん階段を自分で登るんですが）ので、行ってみようと思ったら、長蛇の列。しばらく（20分位）行列に並んでみましたが、列は一向に進む気配もなく、あっけなく挫折しました。





並んでいる間に中庭から空を見上げたお気に入りの一枚。



塔の上からはこんな風景が見えるようです。¹貝殻状のカampo広場が良くわかります。有名な Pario (パリオ) という地区対抗の裸馬のレース (と言ってしまえば簡単ですが、7月2日と8月16日の年に2回のこの Pario のために1年がある。といわれるくらい、地域に密着した熱狂的なお祭りなのです) が行われるのもこの広場。ここに土を運んで、石畳に敷きつめ、馬場にするそうです。ちなみに、走る距離はこの広場を3周。ということは、時間にすればものの5分程度ですね。他の馬の手綱を取る以外、どう相手を妨害してもOK。騎手が落馬しても、馬が一着でゴールインすれば優勝。と競馬と格闘技を一緒にしたような相当激しいレースとのことです。激突したりで、馬が死んでしまったり、負傷することも多くて、動物愛護団体から反対運動も行われています。(だからと言って、中止する気は全くないようですが) 丁度私が訪れたのが、今年1回目の Pario と2回目の間。街の色々なところで、Contrada (コントラダ) と呼ばれる地区の旗とか見ましたよ。(それぞれ虫とか動物とかがシンボルになっていて、その区画に行くと、タイルがはってあったり、街灯があったりと分かるようになっていきます) Contrada は17あって、Pario に出場できるのは10チーム。ということで抽選なのだそうです。抽選も含め、実際のレースの前後には、色んな儀式があるようです。

¹写真は<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%83%B3%E3%83%9D%E5%BA%83%E5%A0%B4>より。



これはガチョウ地区。通りには盛大に旗がはためいていました。
どうも今年の7月2日のParioではこのチームが優勝したようです。



左は毛虫地区。右は多分狼かな？他に、ヤマアラシとか、カタツムリ、貝殻に一角獣、亀にキリン、森林、雄牛、竜、塔、フクロウ、波など、多分何か由来はあるのでしょうか、なんでそれがシンボルになったのか、不思議な気がします。



ちょっとガラスが反射して見にくいですが、7月のParioのガチョウ地区優勝のものと思われる記事の切り抜きが貼ってありました。隣は紋章ですね。ガチョウ地域のある一角に、沢山テーブルと椅子が準備されていました。ここで祝賀パーティーでもしたのでしょうか？◎ まずは、Parioの街、Sienaでした。
Siena まだ続きます。